



事業拡大加速へシステム運用体制を革新 包括的アウトソーシングでコア業務に集中

「NSFITOS」を北九州で採用、ハイブリッド環境の構築・運用を一元化

背景

管理戸数とともに増加するデータ量に対応する一方で、会社の事業展開を支えるIT企画・戦略業務への注力が求められていた。システムの安定運用とコスト効率を追求するとともに、IT部門をコア業務へ集中させたいと考えた。



大東建託株式会社
執行役員
情報システム部長
田中 正義氏



大東建託株式会社
情報システム部
システム管理課
課長
鈴木 慎一氏



大東建託株式会社
情報システム部
システム管理課
チーフ
松本 浩司氏

ソリューション

ITインフラの運用・保守、新鋭データセンター、マネージド・クラウドサービスを包括的に提供するITアウトソーシングサービス「NSFITOS」を採用。オンプレミスとクラウドで構成するハイブリッド環境の構築・運用を一元化する。

成果

システムの安定性とコスト効率のさらなる向上、災害対策の強化、将来的なデータ量増加への対応などを実現。加えて、会社の事業展開を支えるIT企画・戦略の策定といったコア業務へIT部門が集中する体制を整備できた。

安定運用とコスト効率などの追求に向けて、運用体制の革新を本格化

「限りある大地の最有効利用を広く創造し、実践して社会に貢献する」という経営理念のもと、独自の「賃貸経営受託システム」を中心に、事業を拡大している大東建託。2016年3月期の連結業績は、8期連続の増収増益を実現した。

同社の情報システム部門が、運用体制の革新を本格化したのは、2006年である。当時、大東建託は東京で稼働していた業務システムを北九州の自社ビルへ移転・集約し、運用の一部を外部委託していたが、事業拡大に伴うサーバーの増加で管理負荷の増大や設置スペース不足などに悩んでいた。2012年には、システムのさらなる安定稼働やコスト効率の追求、データ量増大への対応、事業部門へのサービス拡充、管理負荷削減に向けて、運用委託範囲の拡大や外部データセンター（DC）への移設などを検討する。

包括的ITアウトソーシング「NSFITOS」でインフラ構築・運用を一元化

大東建託が一連のプロジェクトのパートナーとして選んだのが、新日鉄住金ソリューションズ（以下、NSSOL）である。それまでも自社ビルで稼働するシステムの運用の一部を、大規模システムの運用実績が豊富である、北九州でスキルの高いIT人材を擁するなどの理由でNSSOLへ委託していたが、他事業者との比較を経て改めて支援を依頼した。

大東建託は2012年8月、自社システムをNSSOLの北九州DCへ移設してNSSOLへの運用委託範囲を拡大。2015年1月には、NSSOLが北九州DCで提供を開始したマネージド・クラウドサービス「absonne Enterprise Cloud Service」で、ITインフラのクラウド化に着手。包括的ITアウトソーシングサービス「NSFITOS」（エヌエスフィットス）により、オンプレミスとクラウドで構成するハイブリッド環境の構築・運用を一元化した。

3年間で4億円の削減などを実現へ、IT部門はコア業務に集中

大東建託は基幹業務システムについて、NSSOLの高いスキルを持つIT人材による運用で、これまで以上の安定性を実現。システムのITインフラコストもクラウド化により、オンプレミス環境と比較して、2016年からの3年間で4億円削減される見込みである。堅牢なDCを活用することで、将来的なデータ量の増加に対応できる拡張性と災害対策も強化している。また、運用・保守の外部委託範囲を拡大することで、運用担当者が2005年の10人から2016年には5人へ半減。大東建託は、情報システム部門が会社の事業展開を支えるIT企画・戦略の策定、AIやロボットのような新技術への対応といったコア業務に集中できる体制を整備した。NSSOLが2016年7月に開設した「NSFITOS センター西日本」の活用などで、さらなる運用の高度化を進める予定だ。

Key to Success

大東建託が包括的なITアウトソーシングに取り組んだきっかけは、事業拡大に伴ってシステムやデータが増え、安定運用やコスト効率に対するニーズがより高まったことである。

執行役員 情報システム部長の田中正義氏は「当社は2016年3月期まで8期連続の増収増益を続け、賃貸物件の戸数が100万に迫り、システムやそこで取り扱うデータが急増しています。一方、システムが短時間でも停止すれば業務に大きな影響が及ぶようになり、安定運用のさらなる追求などに向けて、多様な対策が必要になりました」と話す。

NSSOLへのシステム運用委託拡大は、2006年1月に東京のシステムを、北九州市にある自社ビルのサーバーームへ移設したときにスタートした。

同部 システム管理課 課長の鈴木慎一氏は「当社のシステム運用実績がある事業者から、北九州地区でスキルの高いIT人材を擁しているNSSOLを選択しました」と振り返る。

2012年8月には、そのシステムを自社ビルからNSSOLの北九州DCへ移設。さらに運用委託範囲を拡大する。

「事業拡大に伴ってサーバーがさらに増加し、サーバーの高密度化によって床の耐荷重が不足したほか、火災などに備えるためにもデータセンターへの移設が不可欠でした。事業者約20社に提案を依頼し、6社に絞り込んで厳格に評価して選定したのが、NSSOLの北九州DCです」（鈴木氏）

同部 システム管理課 チーフの松本浩司氏は「多数のDCを比較するため、綿密に調査をしましたが、NSSOLのDCは拡張性が高く、最新の設備を備えていたところが魅力でした」と話す。

鈴木氏は「北九州DCへのシステム移設はNSSOLにとりまどめを依頼しましたが、3日で全システムを移転する計画のところ、NSSOLは最初の1日で移設を終え、次の1日で動作確認までを行うなど、安心して任せられました」と振り返る。

松本氏は「NSSOLが、当社と移設する機器ベンダーの保守担当者の間に入って、きめ細かくコミュニケーションを行ったことで、当社はより大規模なマネジメントを行うことができました」と話す。

オンプレミスとクラウドが同じDCに absonneはコストも安定性も優位

NSSOLのクラウドへのシステム移行は、2015年1月から着手した。

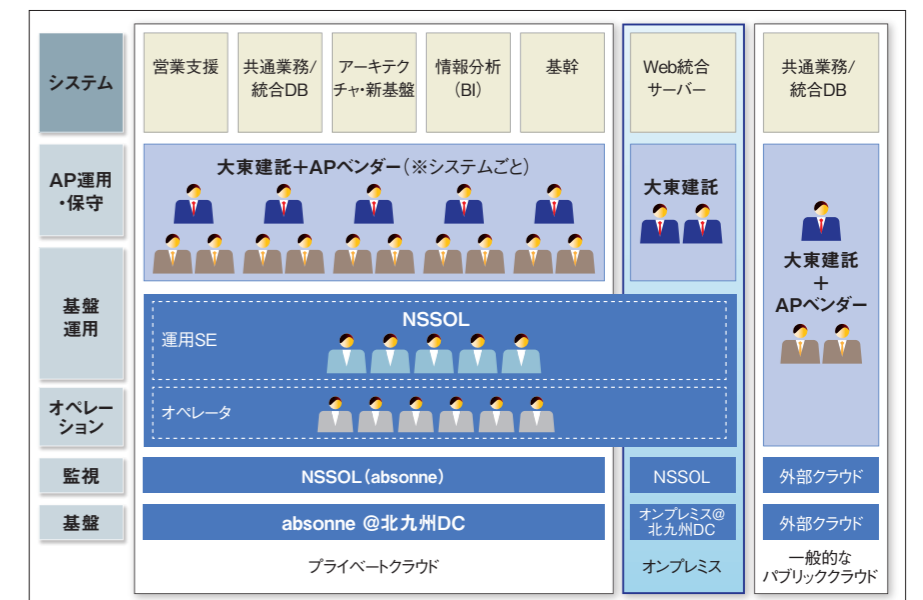
鈴木氏は「absonneが北九州DCで

提供されるタイミングに合わせ、リリース時期を迎えたシステムを対象に、オンプレミスからクラウドへの移行を実施しました。absonneには既に豊富な実績があり、コスト的にも優位です。オンプレミスとabsonneが同じDCにあるため、ネットワークの遅延もありません。他社クラウドと単純に比較することはできませんが、目立つトラブルも皆無です。オンプレミス環境とabsonneが同じように高い品質で運用されていると感じます」と語る。

オンプレミスとクラウドの構築・運用を一元化する「NSFITOS」に対する大東建託の期待は大きい。

田中氏は「ITインフラの構築・運用をNSSOLに一本化することで、当社の情報システム部門は会社の事業展開を支えるIT企画・戦略の策定、AIやロボットのような新技術への対応などのコア業務へ、集中していきたいと思っています」と今後の抱負を話す。

■大東建託が採用した包括的ITアウトソーシング「NSFITOS」の概要



AP: アプリケーション BI: ビジネスインテリジェンス DB: データベース

- コアテクノロジー
NSFITOS（エヌエスフィットス）、ハイブリッドクラウドインフラ（absonne）、ITアウトソーシング
- システム概要
 - サービス拠点：新日鉄住金ソリューションズ北九州データセンター、NSFITOSセンター西日本
 - クラウドサービス：マネージド・クラウドサービス「absonne Enterprise Cloud Service」（アブソヌ・エンタープライズ・クラウドサービス）



大東建託株式会社
本社：東京都港区港南2-16-1
設立：1974年
資本金：290億円（2016年3月31日現在）
売上高：単独6173億円/連結1兆4116億円（2016年3月期）
従業員数：単独1万256名/連結1万5692名（2016年3月31日現在）
グループ会社：連結対象会社25社、関連会社3社（2016年3月31日現在）